

2021年6月1日(火) 雨

先週土曜から「五月晴れ」、6月に入った今日もよく晴れそう。陽ざしは昨日に続き肌をさす強さのよう。日傘はぜったい手放せない。昨日の夕刊に、宇治・三室戸寺の紫陽花の話題。7月の「象鼻杯」は今年も中

— 糧になるか、〈枯れ〉になるか —

一日に数回ネットのニュースサイトをチェック。リアルタイムのニュース以外にも特集やスペシャルコンテンツもざっと閲覧しますが、先週はコロナ対策の最前線で政府にモノ申す専門家と第7世代の芸人さんの対談を発見、なかなかレアな組み合わせです。

専門家にすれば一生懸命、若者に情報発信しているつもり、でも芸人さんいわく、「いまはむこうからやってくる情報がたくさんありすぎて、たぶん、緊急事態宣言が出ているのを知らない人もけっこういると思います」。これには専門家の重鎮も落胆されていました。

芸人さんの言うとおりでさうだろうと思います。生活の場、情報の経路が相当に違う若者も少なくない。実際、個人的にも驚いた経験があります、今から25年も前、専門学校で少し教えていた時に。

何の事件だったかすっかり忘れてしまいましたが、とにかく新聞もテレビもその事件のことで持ち切りだったのに、それを知らない学生がいた。知りたくなくても、知ってしまうほど世の中を騒がしていたニュース、むしろよくぞ知らずに生活していたもの。

本人にやはりそう尋ねてみましたが、こちら驚きをよそに、「別に普通」と、あまり興味なさそうな返答。それ自体にも妙な感心をしたものです。同じ社会に住んではいるけど、〈住む世界〉が違う。

〈住み世界〉がちがう。今も昔も変わりませんが、今はネット(特にSNS)がかえって〈住む世界〉間の越境をしづらくしているようにみえています。例えな身近なところでこんな話を聞きました。

起業をめざす人たちのあるコミュニティに入った方、最初は刺激になってよかったそうですが、そのうち“ちょっと違うなあ…”と感じるようになってコミュニティを抜けることにした。

すると、主宰者は他のメンバーたちにも伝えるカタチで、あの人は自己投資できない人とか、なんとか、色々言われたそうです。精神的ストレスを被りましたが、「いい社会勉強になりました」とご本人。

どこを居場所にするか、どこを自分の〈住む世界〉にするか、これまでも何度となく言ってきていますが、これは相当に大事。情報の種類もかわるし、精神の糧になるか〈枯れ〉になるかの差にも係ります。

2021年6月4日（金）

「今日のessais」で話した、最後に残る、残す本



2021年6月4日(金) 大ぶりの雨

昨日から雨、大阪市内は早朝から強く降ってきた。夕方までけっこう降りそう。数日前(話す)で紹介した宇治・三室戸寺の「象鼻杯」、一応開催の予定、7月10日(土)。

－ 本でわかる続くワケ －

「今日のessais」で話した最後に残る、残す本。写真を載せましたが、最近あらためて良い本だなあと感じるの、これまでも何度となく紹介している、『私の日本語雑記』、「日本語雑記」を超える本です。

読んでいて、心酔したというか、一番入り込んだのは、『数学する人生』。『モンテーニュ』も『風姿花伝』も入り込みましたが、それ以上でした。何が?と問われても即答は難しい。存在すべてが、でしょうか。

読んだのは2017年春、しばらくは機会あるごとに人に話していたものです。その熱もようやく覚めた頃、この本は、なんとも思いがけない瞬間をつくってくれたのです。

打合せて出かけた仕事先。話も一段落して雑談の合い間、「いま読んでいる本、この人はすごい、このところずっとカバンにに入れていてね…」と先方の社長のとり出したのが、『数学する人生』。

ああああ!と思わず叫びました。「その本は実は…!」と話すと、えっ?!という表情から、ああ…という表情になり、そうか…と納得されたような感じで、何度も頷かれた。

20年以上も続く相手先。価値観を共有するからこそとわかっていましたが、この瞬間は決定的でした。帰り際、「今日は本当によかった、同じ本を読んでいたとは、本当に…」と言っていた。

この日のことは生涯わすれないだろうと思います。このことを機に気づいたこと、わたしに誇れるものがあるとすれば、それはクライアント。よくぞそこに気がいったもの、遅ればせながら、ですが。

2021年6月6日(日) 曇→晴→曇

先週の予報では今日は晴れ、でも朝から曇り、そのうち雨がぱらつき、正午前から晴れ、そして夕方からはまた曇り。さほどムシ暑くもなく、まずまず過ごしやすい一日。

－ 真剣、なぜ笑う? －

日曜朝にフジでやっている3者対談の番組。今日も個性的な3人の話に聴き入りました。いくつか印象的なことがあります、一つ。

芸の指導に熱が入り、一生懸命語りかけていたら、相手の若手が笑っていた。咄嗟にカチンときたけど、イヤ待てよ、彼にはまだ熱をいれて語れるものになっていないんだ、と思ったそう。

笑われる、こちらが一生懸命しゃべっているのに。その場面が目には浮かびます、同じような経験があるものですから。ずいぶん前の創業塾、どこだったかは忘れましたが、受講者の一人の男性が笑っていた。

受講者の全体を見ながらしゃべっているわけですが、笑っているその男性が目に入り、“…？何か笑うようなことを言ったかしら？”と頭の隅で怪訝に思いながら、話を続けたのでした。

ほんとうに何を笑ったのでしょうか。確認しなかったのは不覚です。真剣さが滑稽に見えたなら、やはりそういうものがまだその人に無いということでしょうね。あるいは全く別な理由があるかもしれません。

やはり本人に聞いてみないとたしかかなことはわからない。ただし聞き方は注意しないと、ややもすると、〈けんかを売ってる〉と勘違いされる可能性はあります。

いままし同じような場面があれば、どういう風に言うか…。例えば、「ちょっと参考までにお尋ねするんですけど、さっきわたしが話している時に少し笑われていましたね、何かへんでしたっけ?」。こんな感じ?

2021年6月9日(水) 晴天

梅雨の中休み、今日も朝から晴天。日中は今日も31度まで上がるよう。でも早朝の風はひんやりして、清々しい。超朝型のご褒美。

— 世界・身近な生活圏 —

今日のessaisの終わりに少し話しましたが、恐怖や不安は人間の精神を侵しやすい。心を閉ざすのも、日頃は鎮めている「悪」を放つのも、どちらも、心身に障ります。

さらに深刻な恐怖や不安にさらされている場合もある。今なら、ミャンマー、ウイグル自治区、香港のデモでとらわれた人たちでしょうし、世界にまだまだたくさんいるだろうと思います。

そこまで広げて考えるのは力不足、ただただ、歴史が教えることからして、想像はできる、彼らは今どういう状況にあるからは。

人間社会の善と悪。いつの時代もある表と裏。そこをおさえつつ、せめて身近なところで知り得る人が、恐怖や不安に苛まれることのないよう働きかけ、自分自身を律していく。

あらためてそんなことを想うここ数日です。

2021年6月11日(金) うす曇→晴れ

今日まで晴れ。急に真夏日が続く、体が暑さについていかず、夕方になると、なんとなくだるくなっていた。昨日から少し慣れてきたが、さて、今年はカラ梅雨か。

－ 「安定した人間関係を維持できる個体数」 －

今日のessaisで話しましたが、よくもわるくも、物事の結果にはその結果なりのワケがあるものです。これまでで出会ったたくさんの人たち、そして個人的な経験からも、そう実感しています。

ところで、独立して今年で30年、「これまで出会ったたくさんの人たち」のたくさんはどのくらいでしょう。ざっくり数えてみようと思います。

1991年から1995年春までのHO時代は、年ごとの出来事を思い出してみても、4年でざっくり、50人ほど？

1995年から1998年末の最初の事務所時代は、これまでの世界とは違う人たちと人づてに出会うようになり、たぶん3年で200人ほど？

1999年から2001年の再HO時代は知人の推薦で講師をの機会がふえて、たぶん2年で250人？

2001年から2003年春の2番目の事務所時代に知人の勧めをきっかけに公的な機関での仕事に関わるようになり、2年で200人？

2003年から2010年始にかけて、さまざまな機会に恵まれ、7年で少なく見積もっても、1500人？

2010年から2014年春にかけては、学びの期間と定めて、目立った動きはせず、4年で200人？

2014年から2021年現在までの6年半ほどでは、1000人程度？

合計3,400人。統計上一般的には400のサンプルで調査の信頼度は保てるといいますから、このessaisをはじめ、日頃の言説もあながち的外れでないと思えていただけるでしょうか。

ちなみに、安定した人間関係を維持できる個体数は一人に平均150人(100人から230人)とされています。日頃会ってなくても顔と名前が一致する相手。

かしかに、3400人と会ってきても、今もリーズレーターをお届けしているのは、約200人余り。

「安定した人間関係を維持できる個体数は一人に平均150人」、これはまた仕事のいろいろな指標に使えらると思いますが、いかがでしょう。

2021年6月13日(日) 曇⇔雨

梅雨空がもどってきた。昨日かろうじて雨はふらなかったが、今日は小刻みに雨模様。冬の終わりに観葉植物を3つ買った。これまであまり変化はなかったけど、初夏に入り、ぐんと育っている。みていて、頼もしい。

ー ふっきれて、その先 ー

何かしら問題をかかえた時に相談できる場所は、いまの時代、ある程度は社会的インフラとして整っています。電話、ネット、今のところ対面はセーブされていますが、体制はできています。

電話相談が増えているそうです。ネットよりも、実際に誰かとしゃべって相談したいという人が多いよう。自粛や在宅ワークなど、人と話す機会が減っているからといいます

相談を受ける側の人のお話によると、相談者はとにかく不安な気持ち、悩みを聴いてほしいという感じが多い。昔なら友だちに聴いてもらっていたような内容。〈友だち〉でも互いにしなくなっている昨今。

このようなケースでは、なまじ具体的な助言はしない方がいい。課題が見えすぎて、それが相談者の心の負担になりかねない。傾聴に徹しつつ、時々小さな問いとして、相談者自身が気持ちのふっきれるようなカタチにもっていく。相談を受ける側の力量です。

電話相談の現場のお話を聞きながら、当方としては、相談者がその後どうするか、それが問題だ、と考えてしまいます。気持ちがふっきれたなら、次にそうならないような何か自分なりの試みを始めてほしい。

自分自身を少しづつ育てていくというか…。

2021年6月16日(水)

映画「メリー・ポピンズ」のポスター！

2年前に長いご縁の経営者の方から「メアリー・ポピンズ」に例えていただき、その後は何かにつけ、話題にしていますが、その方から先週金曜、映画の「メリー・ポピンズ」のポスターをいただきました。これからのお守りにしていきます。



2021年6月18日（金） 晴→曇→雨

昨日はよく晴れた。今朝も今のところ晴れ。でも夕方からまた雨になるらしい。まもなく夏至だが、日の出時間は昨日から反転して遅くなり始めた。陽地もまもなく終わる。

— 『過去は少しも決定されていない』 —

今日のessaisでも話しましたが、未来の状況によっては過去の出来事に新しい意味が加わるものです。『人生という作品』（三浦雅士 NTT出版 2010年）に見つけた一文がうまくいい表しています。

「本当に生きるっておもしろい!」と言うようになって久しい。心底そう感じるようになったのも、時間の経過です。10年前に“わかった…”と思ったことが、10年経ってみると、まだまだわかっていなかったとわかる。

個人的なこの発見はなかなか鮮烈でした。目が開いた感じがしたほどです。そして極めつけは、今朝話した大仕事の段取りの終盤に、法律・制度に、いく手を阻まれた時のことです。

「万事休す」かと天を仰いだ時、我ながらびっくりしましたが、まったく会ったことも話したことも、その存在自体、身近かに感じたことのない祖父に、「力を貸してください…!」と祈っているではありませんか。

生れて初めて、人生の後半になって初めて、祖父母の存在を感覚としてわかった、認めた、認識した、そういうことです。こんなことがあるんですね、長く生きています。

この感覚と認識を獲得できて、本当によかった。大きな喜び、慶事の、慶びといったほうがいいかもしれません。ヘンな言い方ですが、〈人間になった〉ような…。

これ以来、未来にたのしみができました。まだまだこれから先も思いもよらない新しい認識を持つ可能性がある。それがどんなことか、わからないだけに、たのしみなのです。

するとまた、過去の意味合いも変わってくるにちがいません。

2021年6月21日（月） 夏至 晴→曇

今日は夏至。昨日は梅雨の晴れ間、今朝も今のところは晴れ。このあと今週はずっと梅雨空の予報。夏に至った感はないが、これから徐々に日は短くなる。

— リーズレター、もしやめる気になったら —

「宣言」が今日から解除、商業施設の土日営業も再開され、「女性チャレンジ応援拠点」も明日から通常開室、水曜夜の担当もまた始まります。オンラインでは自然な会話の流れ、発話はどうしても難しいので、対面でフォローしていこうと思っているところです。

今日は夏至、追ってリーズレターを配信します。考えてみればこのレターもよく続けているものです。1995年以来、仕事・プライベートの別なく、新旧知人・友人の、今はおよそ200数十名の方に季節のご挨拶に代えて届けているもの。こちらからの唯一のアプローチです。

受け取った方から時々感心してもらいますが、そのつど、「もしこれをやめる気になったとしたら、自分の中の大切な何かを無くしたことだと思います」と応えています。今のところ、続けられています。

2021年6月23日(水) 曇→雨?

今朝は曇り空、そのうち雨が降りだすよう。昨夕の地下鉄ホーム、「昼飲み」したのか、足元おぼつかずマスクをしないまま咳を繰り返す男性。五輪競技場での酒類販売検討→断念の方向、検討自体疑問符。

— 『創造性を拓く』 —

昨日の「今日のessais」で少しな話した『創造性を拓く』(早川書房1991年)は図書館で見つけて読みました、1995年のことです。以来ときどき引用させてもらっていますが、自分の想うところで未来を拓きたい人にはひとつの教養としてよい一冊ではないでしょうか。例えば、次のようなことが書いてあります。

「創造性とは何か」、それは、『創造性と創造的思考は開発し、みがくことができる技術である。創造的な人々は自分の作品を文化的、知的、歴史的背景において見る傾向がある。〈;創造的〉;という表現に値するためには、作品は本質的価値をもたねばならない』。

「創造的な人々の声」として、例えば、『鍛錬と自己批判も重要である。青天のへきれきを待ってはいけない、勤勉さが必要である。アイデアが湧かない悩みも過程の一部である。わずかな知識はないよりでしたが、豊富な知識が何にもまして大切だ』。

「アイデアを編集する」として紹介しているのは、『創造的な人が際立っているのは、ひとつには、そのアイデアの価値判断ができることだ。役に立たぬものは容赦なく拒否できるようでなくてはならない。創造的な問題に対して安易な解決を受け入れるのはよくない』。

さらに、『同じ分野のほかの活動や、別の分野の関連のある活動についても知らなければならない。次代に対する優れた感覚をもつべきである。他の人の創造的作品を分析し、「なぜこの人はこのようにやったのだろう」と考える習慣をつけなければならない』。

腑に落ちる点が多々ある本だろうと思います。ご参考まで。



2021年6月27日(日) 曇→雨?

今朝も曇り空、雨も少し降った。午後にかけてもこんなお天気。湿気が多いせいか、冷や汗をかいたような皮膚感覚。皮膚と気分は大きく関係しているので、さっぱり感と保湿を心がけ。

— 講談師に学ぶ —

土日は〈遊〉よりも〈学〉に時間を使うという知人の経営者。「これ、お勧めですよ!」と教えてもらい、昨日受講したのが、A´ワーク創造館の『話に引き込むのは「間」と「構成」にあり!講談師の技術に学ぶ』。

講談はメディアで取り上げられた「伯山」に関心をもったぐらいで、直に聴いたのは初めて。ほんのさわりだけでしたが、うなる声、うねる上半身、パーンと響くはり扇(おおぎ)、迫力満点です。

それ以上に感心したのは、即興性。受講者が挙げたキーワードをすべて使い、即興の物語にして講談する。頭の中が講談のドライビング構造になっているのか、それにしても、凄い。

印象的だったのは、講談は物語の細部まで憶えるようなことが少ないということ。落語とは桁違いに作品の数が多く、大きな話の流れ、筋をつかむ程度でないと、たくさんの物語をカバーできないらしいのです。

ということは、細部は身体が憶えているということか。多くの作品の内容は違うけれど、聴衆をひきつけて、物語りの中に引き込むのは共通しているから、そこには共通のパターンがあるはず。

ただパターンはあっても、語句は違う。それも、場数をふんでいくうちに、細部の言葉たちが自然に口について出てくるようになる、そんな風に頭と身体が磨かれていく。人間のスゴさではないかと感じたのでし

昨日の講談師の方いわく、「講談は他の分野といくらでもコラボできるんですよ、例えばジャズのライブで、曲の前にゆかりの人を物語るとか」。なるほど、過去も現在も未来も、天も地も、人は語る事ができる。

場合によっては大衆をミスリードすることさえある。語る、物語る、いやはや、この営みたるや、深遠なり、ではありませんか。

2021年6月30日(水)

「メリーポピンズ」が本当に〈お守り〉に



机におかい、目をあげると、「メリーポピンズ」が微笑む。これが思いのほか、効いています。ホームページに写真を初めて載せた時、「これからのお守りに」と書いたのですが、本当に〈お守り〉になりそうです。